

リニア環境未来都市整備方針

中間素案

平成28年10月

山梨県

目次

第1章	策定の趣旨	1 頁
第2章	本県の強みとリニア駅周辺及び近郊の現状	
1	本県の強み	3 頁
2	リニア駅周辺及び近郊の現状	5 頁
第3章	リニア中央新幹線の開業と本県の将来展望	
1	リニア中央新幹線の概要	7 頁
2	リニア中央新幹線開業による効果	7 頁
3	本県の将来展望	9 頁
第4章	リニア環境未来都市の基本的な考え方	
1	基本理念	1 1 頁
2	対象エリア	1 2 頁
第5章	リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み	
1	駅周辺及び駅近郊の役割	1 3 頁
2	駅周辺の整備	1 4 頁
3	駅近郊の目指すべき姿と取り組み	2 1 頁
4	土地利用の方針	2 7 頁
第6章	リニアの開業効果の県内全域への波及	2 9 頁
第7章	整備方針の推進	
1	行政・民間・関係機関による推進体制	3 1 頁
2	整備方針の見直し	3 1 頁

第1章 策定の趣旨

リニア中央新幹線の開業は、本県と首都圏、中京圏、更には関西圏との時間距離を大幅に短縮させ、沿線地域において都市機能の立地の可能性を高めるとともに人々のライフスタイルを変化させるなど、様々な波及効果を生み、暮らしの質の向上や経済活性化をもたらします。

また、国においても、リニア中央新幹線を「国土のグランドデザイン2050」の基本戦略として位置づけ、三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ一体化し、世界最大のスーパー・メガリージョンが形成され、世界から人・物・金・情報を引き付け、世界を先導していくこととしております。また、リニア中間駅の活用により、新たな人の流れを生み出し、高度な都市生活と大自然に囲まれた環境が近接した新しいライフスタイルを実現するとともに、リニアと他の交通ネットワークとの結節を強化し、スーパー・メガリージョンの効果を全国に拡大することとしております。

この格段に高まる有利性を最大限に生かしリニアを活用した県土づくりを進めることは、本県にとって、新しい変化を山梨に創っていく大きなチャンスとなります。

このチャンスを生かし、山梨の発展につなげていくためには、豊かな自然環境や豊富な地域資源を活用したクリーンエネルギーなど山梨の強みと、リニア中央新幹線による交流・活動の拡大などの開業効果を結び付け、相乗効果を生み出し、活用していくことが重要となります。

このため、本県では山梨の強みを最大限に生かし、環境との共生や新たなライフスタイルが展開するリニア環境未来都市の創造を掲げました。

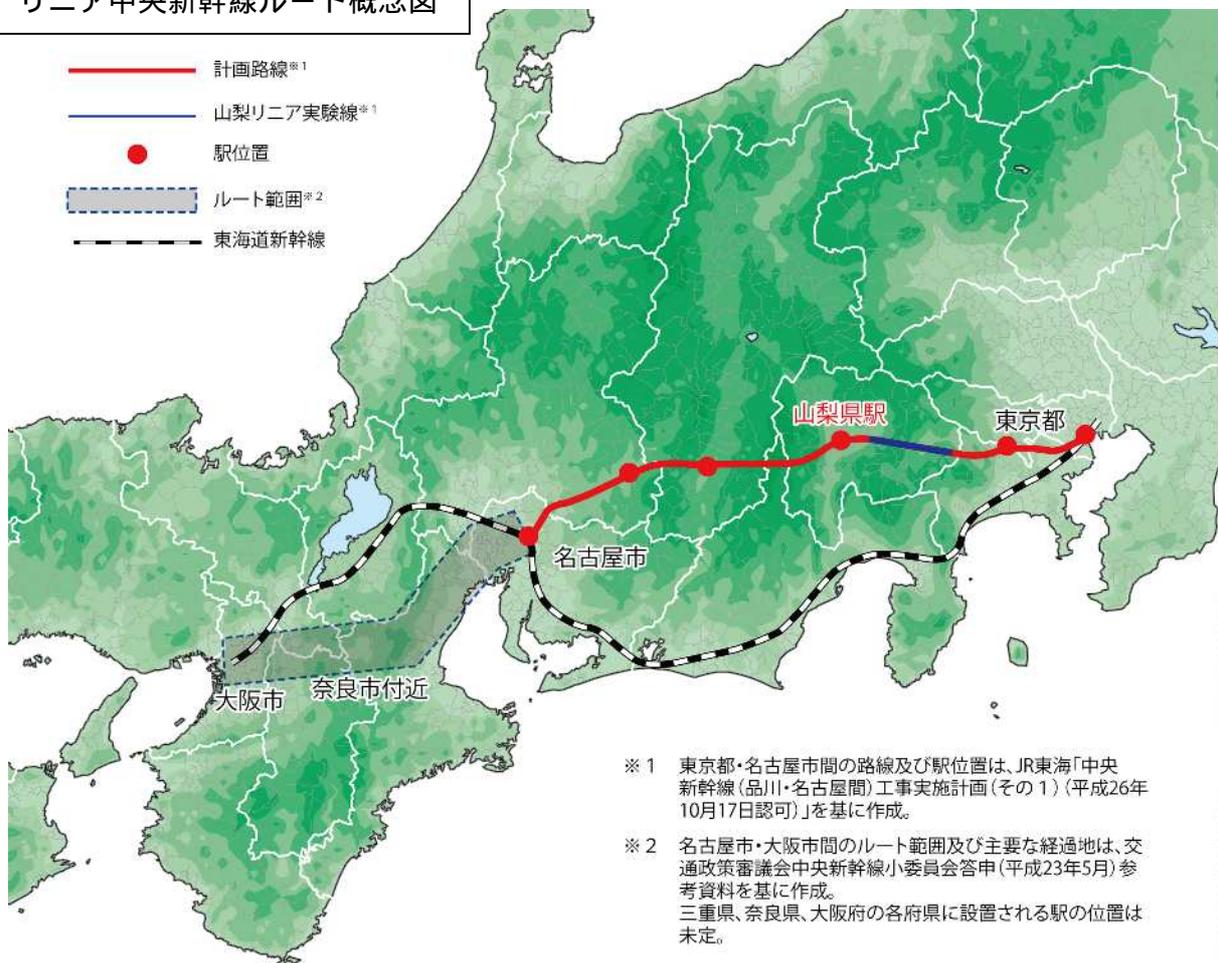
整備方針では、リニア環境未来都市の創造に向け、開業までにリニア山梨県駅（以下、リニア駅という）周辺に整備する施設や機能などの基本的な内容、開業後を含む将来を展望した今後のまちづくりの目指すべき姿とその実現に向けた取り組み、リニアの開業効果を県内全域に波及させる取り組みを明らかにすることにより、県をはじめ県民、市町村、民間事業者、関係機関・団体などが一体となって取り組みを進める基本的な指針として策定しました。

リニア中央新幹線



写真：超電導リニアL0(エル・ゼロ)系車両

リニア中央新幹線ルート概念図



第2章 本県の強みとリニア駅周辺及び近郊の現状

1 本県の強み

(1) 優れた交通アクセスと立地環境

本県は首都圏西部に位置し、東京都、神奈川県、埼玉県、長野県及び静岡県に接しています。

東西に横断する中央自動車道及びJR中央線によって、東京・神奈川方面並びに長野県を經由して中京圏域にアクセスすることが可能です。特に、中央自動車道の利用により、東京、名古屋、大阪の3大都市圏にアクセスが可能です。

今後、中部横断自動車道やリニア中央新幹線が開通すると静岡方面や中部・関西方面へのアクセス向上が見込まれ、東京や名古屋方面へのルートが複数選択できます。

(2) 四季の豊かな自然環境と清冽な水

本県は、富士山や八ヶ岳、南アルプスなど日本を代表する名峰を抱え、富士箱根伊豆・南アルプス・秩父多摩甲斐の3つの国立公園と八ヶ岳中信高原国立公園の自然公園に囲まれており、標高に応じた多様な生態系が形成されています。

春には桃や桜、すももの花が咲き、夏には緑がまぶしく、秋には周囲の山々が紅葉に染まり、冬には富士山や南アルプスが雪化粧するなど四季折々の豊かな自然環境の中で、美しい農村風景が広がっています。

また、森林は県土の約8割を占めているため、豊かな森林の水源涵養機能により、名水百選に3箇所、平成の名水百選に4箇所が選ばれるなど、清冽な水源に恵まれています。

(3) クリーンエネルギー先進県

本県は、森林や豊富な水、全国トップクラスの日照時間に恵まれており、太陽光や水力、木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利活用に適しています。

また、本県を通る天然ガスパイプラインを活用したガスコージェネレーションの導入の促進や、自立・分散型エネルギー供給システムを備えたスマート工業団地等の整備を目指すとともに、水素エネルギーについても、山梨大学の燃料電池開発プロジェクトの支援や、燃料電池関連産業の集積・育成、燃料電池車や水素ステーションの普及に努めています。

更に、再生可能エネルギーの安定利用とエネルギー関連産業の発展のため、次

世代フライホイール蓄電システムなど、最先端蓄電システムの研究を推進しています。

(4) 高度な技術を有するものづくり産業と全国トップレベルの企業立地支援制度

本県は、首都圏に隣接する立地条件などを生かし、数値制御装置、半導体製造装置等に代表される高度なものづくり産業をはじめ、山梨大学燃料電池ナノ材料研究センターを中心とする燃料電池関連技術に関する最先端の研究開発拠点等が集積しています。

現在、更なる企業誘致を推進するため、産業集積促進助成金や雇用創出奨励金の支援制度に加え、本社機能の移転や事業拡張を行う事業者に対し、不動産取得税、事業税などを軽減する優遇制度の創設や、「やまなしパワー」による安価な電力供給などの取り組みを進めています。

(5) 多彩な観光資源

本県は、富士山や南アルプス、八ヶ岳などの豊かな自然環境、ぶどう、ももなどの果樹園が織りなす農村景観、更には、県内各地に分布する温泉など観光資源に恵まれています。

また、戦国時代の知将として全国的にも人気の高い武田信玄にまつわる史跡が多く、県内各地には歴史的な神社仏閣も見られます。

更に、ミレーの美術館として知られている県立美術館をはじめ、文学館や博物館、考古博物館などにおいて、魅力的な文化芸術に触れることができます。

(6) 特色のある農産物や地場産業

本県は、気象、土壌、日照等、農業生産に適しており、この立地条件を生かし、甲州八珍果に代表される多くの果物が栽培されています。特に、ぶどう、もも、すももは日本一の収穫量を誇っています。

また、全国的にも有名なジュエリー、ワイン、織物、印章、和紙をはじめとして、本県の風土に根差した様々な地場産業があります。特に、ワインについては、2013(平成25)年に初めて「山梨」が地理的表示として国税庁により指定され、「山梨」は国際的にも保護されるブランドとなりました。

(7) 安心で潤いのある生活環境

本県では、安心して子どもを産み育てる環境や誰もが生涯にわたり健康で生き生きと暮らしていく環境など、安心で潤いのある生活環境の整備を進めています。

子育て支援については、全国的に子どもが保育所に入所できない待機児童が問題となっていますが、本県では待機児童数は 0 人の状況が続いています。また、県内ほとんどの小児科医が連携・協力する県内 2 箇所の小児初期救急医療センターの運営を行うとともに、子育て世帯の経済的な負担軽減のため、全国で初めて、2 人目以降の子どもについて、市町村と連携して 3 歳未満児を対象に保育料を無料としています。更に、産前産後の母親の不安や悩みを軽減するため、市町村と連携して産前産後ケアセンターを運営しています。併せて、教育の充実についても、国に先駆け、小学校 1、2 年生は 30 人学級、小学校 3 年生から中学校 3 年生までは 35 人学級とする少人数学級編制により、児童生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を実施しています。

また、本県は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命が男性、女性ともに日本一であり、高齢者の要介護認定率も日本一の低さとなっていることから、高齢者が健康で長生きできる環境が整っています。

(8) 安全・安心な社会・県土

本県は、内陸部に位置しているため津波の被害がありません。また、近い将来発生が懸念されている南海トラフ地震等をはじめとする大規模な地震災害に備え、老朽化の進む公共施設等の長寿命化・耐震化や、防災拠点となる施設の機能強化、情報伝達基盤の整備、地域コミュニティにおける減災への備えなど、災害に強い強靱な県土づくりに取り組んでいます。

2 リニア駅周辺及び近郊の現状

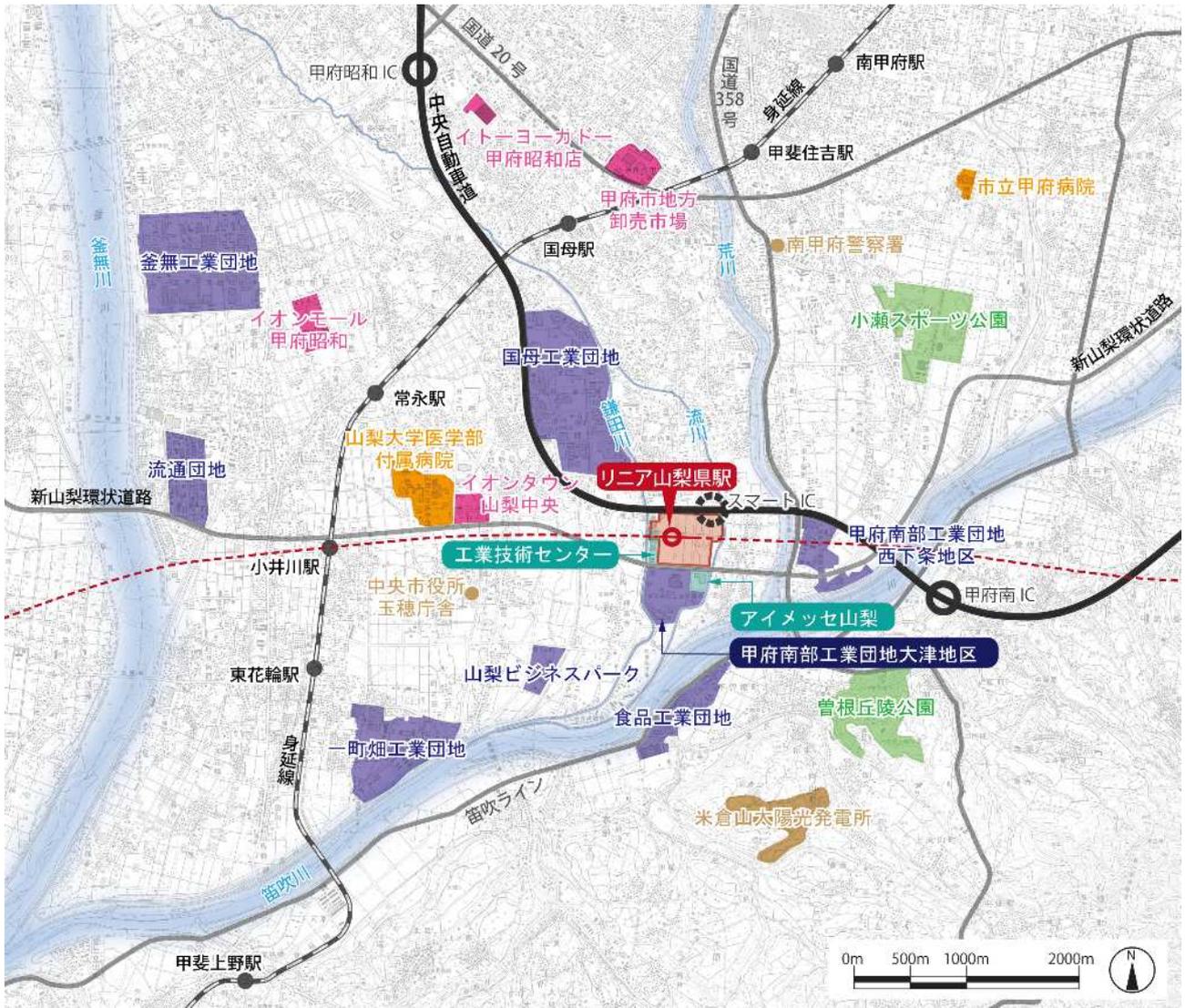
リニア駅が建設される甲府市大津地区は甲府盆地南部に位置し、周囲は笛吹川、荒川、鎌田川、流川などの河川や里山の自然環境、水田や果樹などの農業が展開されるなど、水と緑の豊かなエリアです。

リニア駅直近には、広域交通を支える中央自動車道、新山梨環状道路が通り、N E X C O や県では、リニア駅に直結するスマートインターチェンジや新山梨環状道路の東部区間の整備を進めることとしています。また、J R 身延線が近くを通り、小井川駅が最寄りの駅となります。

近隣には、工業技術センター、アイメッセ山梨、甲府南部工業団地、国母工業団地、山梨ビジネスパークなどの各種の産業関連施設や、山梨大学医学部附属病院、

大型ショッピングセンター、小瀬スポーツ公園などの豊かで潤いのある日常生活を支える施設が立地しています。

リニア駅周辺及び近郊図



第3章 リニア中央新幹線の開業と本県の将来展望

1 リニア中央新幹線の概要

リニア中央新幹線は、東京都から甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市附近、奈良市附近を經由し大阪市までの約 438 km を、我が国独自の技術である超電導リニアによって結ぶ新たな新幹線です。

2027（平成 39）年には品川 - 名古屋間が先行開業し、その後、大阪まで延伸されます。

リニア中央新幹線の実現により、東京 - 名古屋 - 大阪の 3 大都市圏が約 1 時間で結ばれ、そのインパクトは単なる経済波及効果に留まらず、国土の構造を変え、日本の国際競争力を強化し、日本人のライフスタイルをも変えるきっかけとなることが期待されています。

< リニア中央新幹線の整備計画（2011（平成 23）年 5 月 26 日 国土交通大臣決定） >

建設線	中央新幹線	
区 間	東京都・大阪市	
走行方式	超電導磁気浮上方式	
最高設計速度	505 キロメートル/時	
建設に要する費用の概算額(車両費含む)	90,300 億円 (注) 建設に要する費用の概算額には、利子を含まない。	
その他必要事項	主要な経過地	甲府市附近、赤石山脈（南アルプス） 中南部、名古屋市附近、奈良市附近

2 リニア中央新幹線開業による効果

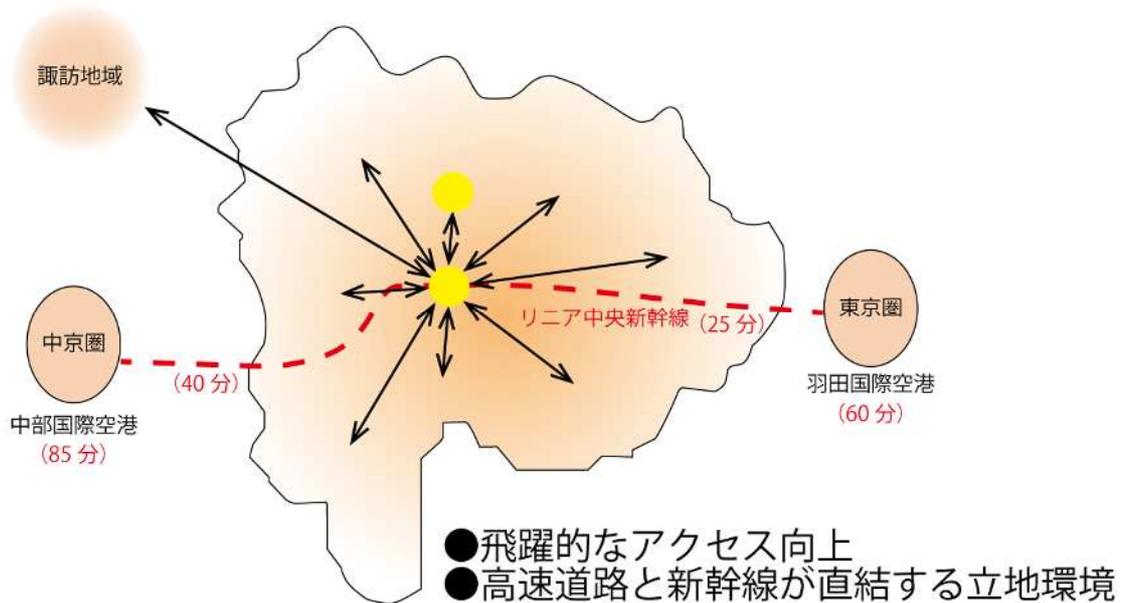
(1) 大都市圏や国際空港との時間距離の短縮効果

リニア中央新幹線の開業により、本県と首都圏のアクセス時間は約 65 分短縮し約 25 分で結ばれ、中京圏へは約 150 分短縮し約 40 分で結ばれます。

現状 2 時間以上かかる国際空港へのアクセス時間についても、乗り継ぎ時間を含めても成田国際空港まで約 105 分、中部国際空港まで約 85 分、羽田空港まで約 60 分でアクセス可能となるなど、大幅に短縮されることとなります。

また、全国初の高速道路と新幹線駅が直結する特性を踏まえ、リニア駅は県内のみならず、長野県諏訪地方の人たちの利用も見込まれています。

リニア開業後の時間距離



(2) 国内外の人々との活発な交流や活動の拡大

リニア中央新幹線がもたらす大幅な時間距離の短縮効果により、大都市圏や国際空港とのアクセスが強化され、本県においても国内外の人々との活発な交流や活動が拡大し、産業集積や新たな企業立地、国内外からの観光客の増加、移住者や二地域居住者の増加の可能性が高まります。

また、本県の東西軸である中央自動車道は、首都圏とのアクセス時間を短縮させ、産業、経済、文化、観光の発展に大きな役割を担うとともに、中京圏、関西圏へのアクセスを可能にしています。一方、南北軸となる中部横断自動車道の整備により、東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道、上信越自動車及び北陸の各高速道路が連結され、太平洋側と日本海側が結ばれ、その連携が強化されます。

この東西軸と南北軸の交差部にリニア中央新幹線が整備され、三大都市圏を結ぶ東西軸の時間距離が大幅に短縮されることにより、本県の地理的な優位性は更に高まり、人・物・情報の一大交流拠点としての発展が期待されます。

3 本県の将来展望

リニア中央新幹線がもたらす国内外の人々の交流や活動の拡大により、本県では新たなライフスタイルの展開と産業・経済の持続的な発展が期待されており、次のような将来が展望されます。

(1) 定住の促進と新たなライフスタイルの展開

大幅な時間距離の短縮効果により、本県の自然や農山村の環境に魅せられて、県内から大都市圏へリニア通勤する人々、サテライトオフィスなどに勤務する人々、テレワークなど多様な働き方をする人々、週末や長期休暇を山梨で生活する二地域居住を楽しむ人々などが増加しています。

こうした人々は、良好な景観や快適な環境などの山梨の魅力と、大都市の利便性の双方を積極的に享受する新たな暮らし方、働き方を展開しています。

(2) 新たな産業や機能の集積

リニア中央新幹線開業により、首都圏、中京圏とのアクセスが飛躍的に向上し、企業の本社や研究開発部門、様々な研究機関などの本県への移転・進出が進み、産業団地などに先端技術関連産業の集積と様々な業種の企業立地が進んでいます。

特に、ものづくり産業では、産学官が連携した研究開発、人材育成等により、技術力、企画開発力が更に高まっています。また、県内外の起業希望者が本県を拠点に、起業に挑戦しています。

(3) 地域資源を生かした多様な観光の進展

富士山や八ヶ岳、南アルプスなどの雄大な山並み、桃源郷などの美しい景観を求め、首都圏はもとより、中京圏、関西圏からの観光客が増加しています。

また、県内各地の観光地では、県民総参加による山梨ならではのおもてなしが定着し、自然や神社・仏閣など魅力ある地域資源、農産物、地場産業などを組み合わせた周遊型・滞在型観光ルートが開発され、リニア駅を起点、終点として多様な観光が展開されています。

更に、Wi-Fiの整備や通訳ガイド、パンフレットの多言語化などの活用により、安心して快適なインバウンド観光が進展しています。



新たなライフスタイルが展開している街並みのイメージ

第4章 リニア環境未来都市の基本的な考え方

1 基本理念

リニア環境未来都市は、リニアの開業効果が最初に発現する場所として、山梨らしさを最大限に生かしながら、環境との共生や新たなライフスタイルの展開を目指し、先導的な取り組みを実践するエリアにしていきます。

このためには、これからのやまなしを支える「エネルギー供給力」「景観・農業力」「安心・防災力」を生かし、先導的な取り組みを展開する中で、この地域の河川や里山、農業が創り出す水と緑の豊かな美しい自然景観、クリーンエネルギー等を活用したエネルギー供給力の充実、最先端のエネルギー管理システム（EMS）などを組み合わせた災害に強く環境に優しい自立分散型エネルギーシステムの導入などを促進していくことが重要となります。

こうした取り組みとリニア中央新幹線がもたらす交流や拡大とを結び付け、相乗効果を生み出すことで、環境との共生と新たなライフスタイルの展開につなげ、産業に活力をもたらし、住む人に潤いと訪れる人に山梨らしさを提供することができる緑豊かで美しいリニア環境未来都市を創造することができます。

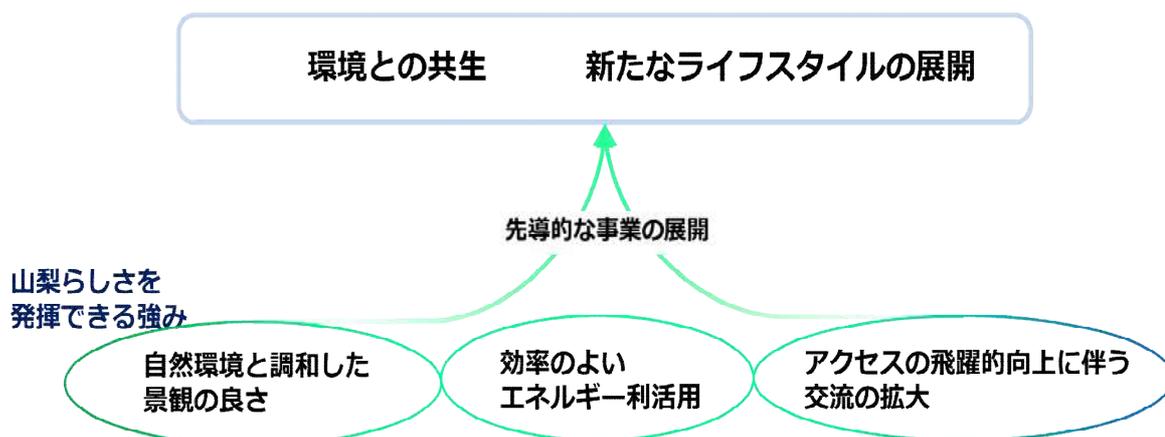
(1) 環境との共生

自然エネルギーの活用やエネルギーの効率的な利活用、新たな景観の形成など、環境にやさしく、自然景観を生かした生活や産業の展開を目指します。

(2) 新たなライフスタイルの展開

豊かな自然環境と大都市の利便性を生かし、二地域居住・田舎暮らしなど豊かで潤いのある生活やサテライトオフィス勤務・テレワークなど多様な働き方の実現を目指します。

リニア環境未来都市の目指す姿



2 対象エリア

対象エリアは、リニア駅を日常的に利用する人々の生活や行動を勘案し、リニア駅から4km程度とします。

本県の新たな玄関口として中核となる駅周辺と、リニア通勤者などの生活や新たな産業の集積の場となる駅近郊（駅周辺を除く）から、リニア環境未来都市を構成します。



第5章 リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み

1 駅周辺及び駅近郊の役割

リニア環境未来都市では、国内外の人々との活発な交流や活動の拡大につながるリニアの開業効果を県内全域に波及させるとともに、豊かな自然、景観など山梨らしさを最大限生かした本県の魅力を発信するため、本県の持つ強みを積極的に活用し、先導的な取り組みを展開します。

このため、リニア環境未来都市を構成する駅周辺と駅近郊において、それぞれの役割を踏まえながら、効率的・効果的に取り組みを進めていきます。

(1) 駅周辺の役割

本県の新たな玄関口として、県内各地との円滑な移動手段を確保するとともに、様々な交流や活動の拡大を推進します。

リニア沿線各駅との差別化を図るため、山梨の強みを最大限に発揮し、本県の魅力を国内外に広く情報発信します。

駅近郊の地域住民をはじめ広く県民にとっても魅力ある空間を提供します。

(2) 駅近郊の役割

全国初の高速道路と新幹線が直結する立地環境や、全国トップレベルの企業立地支援制度などを活用し、産業の振興や定住の促進など、本県の発展に向けた取り組みを推進します。

各種イベントなどを通じた交流の拡大や魅力の発信など、新たな取り組みを展開します。

(3) 総合球技場の位置づけ

総合球技場は、全国規模のスポーツ大会等を通して、県民に夢と感動を与える場になるとともに、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を創出し、今後、スポーツ振興のみならず地域振興を図る上で、重要な役割を果たします。

現在、総合球技場検討委員会において、総合球技場の機能や規模、整備・運営手法、駅周辺も含めた建設場所について検討しており、この検討内容を踏まえ、リニア環境未来都市にふさわしい施設に位置づけた上で、駅周辺施設との相乗効果が発揮され、効率的な整備となるよう、それぞれの施設の役割分担や整備内容などについて整合を図り、適切に整備方針に反映していきます。

2 駅周辺の整備

(1) エリアの区分と整備する施設

本県の新たな玄関口となることから、交通結節機能を持つ交通エリア、リニア中央新幹線や高速道路で来県する観光客と県民が利用し、近郊における産業集積の呼び水となる観光交流・産業振興エリアに区分して施設を整備します。

また、各エリアの施設の配置は、本県の新たな玄関口にふさわしい空間となるよう配慮しつつ、中央自動車道スマートインターチェンジと新山梨環状道路からのアクセス、リニア駅利用者の動向、周辺施設との連携、人の動線などを考慮します。

エリア名	面積	備考
交通エリア	14.0 ha	駅北口交通広場、P&R 等含む
観光交流・ 産業振興エリア	10.5 ha	駅南口交通広場、緑地やイベント広場等含む
【 合 計 】	24.5 ha	(リニア駅、本線部分を除く)

今後の各種設計などにより変更になります。

交通エリア

【整備の考え方】

リニア中央新幹線を活用し、大都市圏や国際空港と県内各地を短時間で結ぶためのアクセス強化に向け、交通結節機能の拠点を駅北側に整備します。

駅前広場（交通広場）は、利用者がわかりやすく乗り換えが円滑に行われるよう、一般交通と公共交通に分けて整備します。

【整備内容】

駅北側は、中央自動車道スマートインターチェンジに直結する道路や、リニア中央新幹線・高速バスを利用する者のためのパーク＆ライド用駐車場を整備し、一般交通を対象に乗降場などを備えた駅前広場（駅北口交通広場）を設置します。

<パーク＆ライド用駐車場の想定面積等>

分類	想定面積
一般車（リニア利用者+高速バス利用者+その他交通利用者）	約 30,000 m ²

今後の各種設計や需要予測などにより変更になります。

駅南側は、公共交通を対象に乗降場などを備えた駅前広場（駅南口交通広場）を設置します。

< 公共交通ロータリーの想定面積等 >

分類	想定面積
路線バス + 高速バス + タクシー	約 6,000 m ²

今後の各種設計などにより変更になります。

電気自動車や燃料電池自動車のための充電スタンド・水素ステーションなどを整備します。

観光交流・産業振興エリア

【整備の考え方】

リニア中央新幹線を利用して来県する国内外の観光客の他、近郊住民をはじめ広く県民にも魅力的な場となるよう、駅南側に、情報発信機能やサービス提供機能、交流機能を備えた観光交流施設を整備します。

山梨らしい自然豊かな景観にするため観光交流施設の周辺に緑地を設置するとともに、来場者の利便性向上のため駐車場を整備します。

企業ニーズも踏まえて、近郊における産業の集積¹の呼び水となる施設や本県に集積した産業の情報発信のための施設を整備します。また、併せて、リニア駅に近接する工業技術センターに必要な機能について検討を進めます。

1：近郊における産業の集積

駅近郊には、本県にふさわしい産業分野を見極めた上で、健康寿命延伸、燃料電池などに関連する産業分野について、中心となる官民の研究施設や関連産業の事業所などを集積し、未来のものづくりをリードする戦略拠点の形成を目指す。

【整備内容】

観光交流施設に整備する機能は、次のとおりです。

今後の官民連携による施設運営等の検討の中で、施設の構成要素や規模について、更に検討していきます。

分類	施設内容	構成要素
情報発信機能	本県の魅力の発信や来県者の満足度向上のため、ICTなどを活用し、多言語による正確でわかりやすい情報の提供	総合案内コーナー ギャラリー 展望デッキ
サービス提供機能	来場者の利便性や快適性向上のため、心のもったおもてなしを行い、観光、宿泊、交通、イベントチケットなどに係るサービスをワンストップで提供し、来場者を丁寧にサポート 様々な来場者に対応するため、ユニバーサルデザインに配慮し、多言語による表記やピクトグラムによる表示 本県の魅力を実際に理解し体感してもらうため、山梨の名物・特産品を購入したり味わったりすることができる機会を提供	各種予約コーナー 特産品販売 のショップ セレクトショップ レストラン・カフェ
交流機能	多くの人が集まるイベントなどを通じて、来場者に山梨の魅力を理解してもらえる機会を提供	イベントホール 貸会議室
その他	通路等	



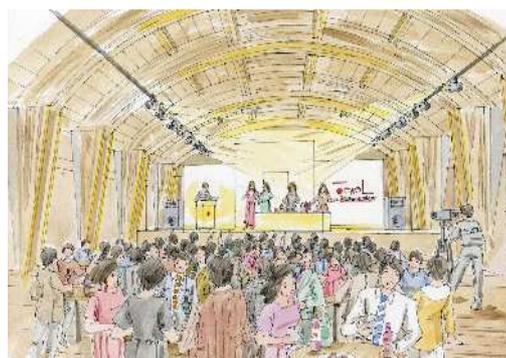
総合案内コーナーイメージ



ショップイメージ



レストラン・カフェイメージ



イベントホールイメージ

緑地は、リニア中央新幹線やスマートインターチェンジの利用者、住民などに魅力的な空間を提供するとともに、地域の安全・安心のため災害時の避難場所として活用します。

- ・山梨の四季を彩る樹木に加え、フルーツ、フラワーなどを生かした緑化や親水施設を活用した水辺などにより緑と水と太陽を満喫できる空間
- ・住民などが快適で健康に過ごせる憩いやリフレッシュする空間

観光交流施設や緑地の利用者のための駐車場を整備します。

< 駅南側駐車場の想定面積等 >

分類	想定面積
一般車 + 観光バス	約 13,000 m ²

今後の各種設計などにより変更になります。

起業を誘導するためのインキュベーション施設や、駅近郊に集積する関連企業と連携する研究施設などを整備します。

隣接するアイメッセなどと連携するとともに、情報発信を行うイベント広場を整備します。

(2) 特色ある整備

リニア環境未来都市の中核にふさわしい駅周辺となるよう、エネルギーの活用や県産材を活用し、魅力の向上に努めます。

多様なクリーンエネルギーを活用した安定的なエネルギー供給とまち全体で最適なエネルギー需給を図るエネルギー管理システムの導入により、災害に強く環境にも優しい自立・分散型エネルギーの需給システムを構築します。

「都市の森林²」を創出するため、建築物には可能な限り県産 F S C 認証材等の県産材を活用します。

2：都市の森林

木が伐採後も木材として生き続け、その木材からなる建築物が林立する状態を森林になぞらえたもの

駅舎等は、県産 F S C 認証材等の県産材を利用した温もりのある内・外装にするとともに駅周辺の景観と調和がとられるよう、J R 東海に要請します。

(3) 防災対策を推進する整備

大規模な災害への対応や駅周辺の浸水対策としての機能の確保に努めます。

地震や台風、大雨など災害時にも対応できるよう、観光交流・産業振興エリアは避難者の受け入れや被災者支援に配慮した整備を行います。

駅周辺の浸水対策として、現状の河川改修計画を踏まえ、調整池や排水施設を整備します。

(4) 整備の進め方

整備主体及び整備手法

整備主体については、施設の整備内容の検討を踏まえ、関係機関と協議を進めていきます。

また、整備に当たっては、民間の資金や技術的能力、ノウハウなどを活用した、PFI制度などの導入も含めて検討します。

整備スケジュール

2027(平成39)年のリニア中央新幹線の開業に向けて計画的に事業を進めていきます。

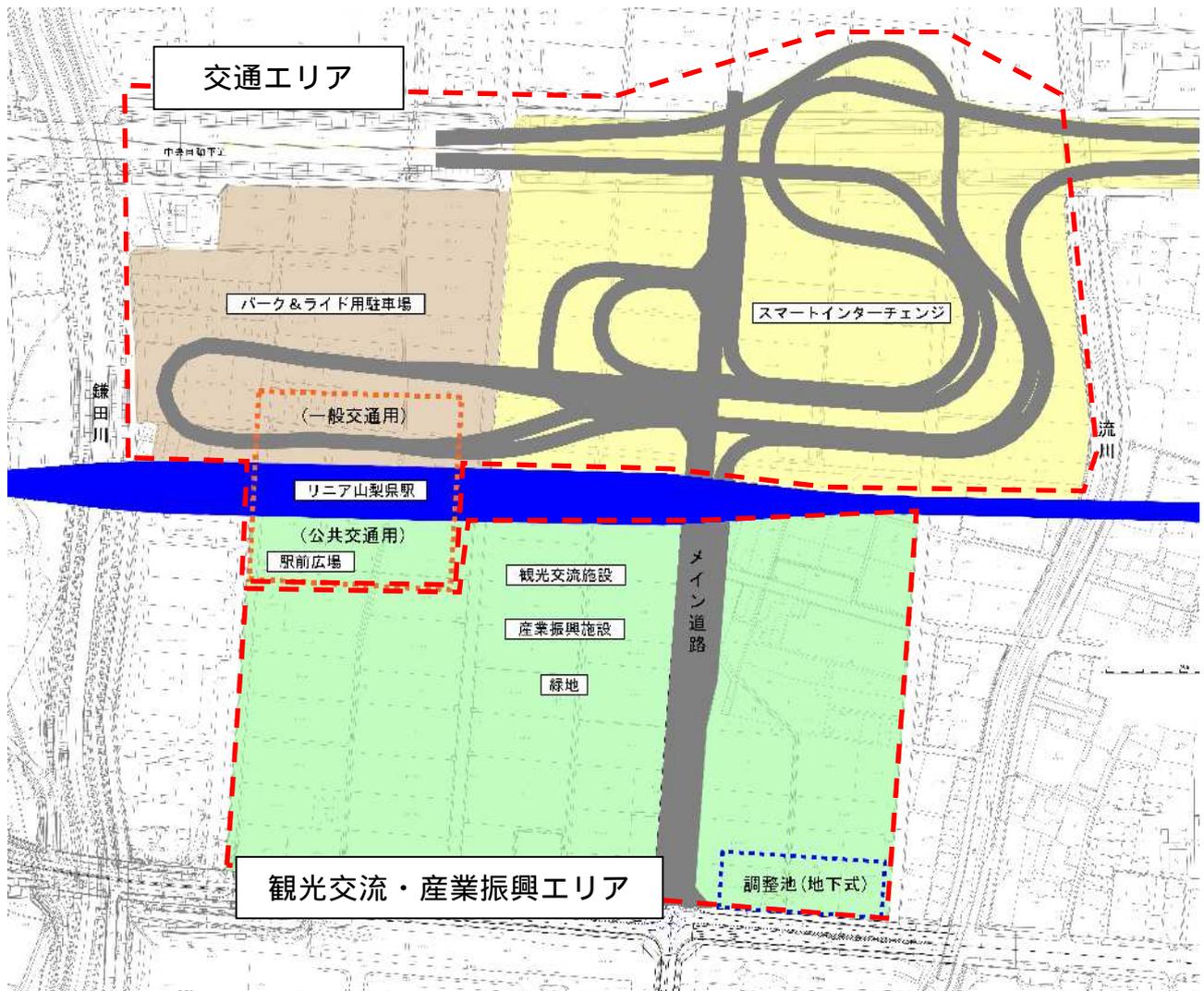
種別	年度												2027 H39
	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32	2021 H33	2022 H34	2023 H35	2024 H36	2025 H37	2026 H38		
リニア駅舎、本体	測量、調査、設計、用地測量・用地取得、建設工事、試験走行											リニア中央新幹線開業(予定) 供用開始予定	
リニア駅周辺整備 (スマートIC、アクセス道路は除く)	整備方針策定	測量、調査、設計、用地測量・用地取得、造成工事、建設工事											
アクセス道路	測量、調査、設計、用地測量・用地取得、建設工事												
スマートIC	測量、調査、設計 用地測量・用地取得 建設工事												

(5) 駅周辺の整備エリアとイメージパース

駅周辺のエリアと整備する施設を示した平面図、それを踏まえた各エリアのイメージパースを例示します。

このイメージパースは、概略のイメージを表現したものとなっており、今後、有識者などの意見を伺いながら、基本設計、実施設計等において、利用しやすい配置や施設デザインなどについて、更に検討していくものとなります。

駅周辺平面図



リニア駅の周辺整備 各施設のイメージ

【観光交流・産業振興エリア】

観光交流施設



緑地



産業振興施設



イベント広場

【交通エリア】



スマートインターチェンジ

パーク＆ライド用駐車場